

# 迫るWindows Server 2012/2012 R2の延長サポート終了。サーバー移行における5つのポイントとは

2023年10月10日にWindows Server 2012/2012 R2の延長サポートが終了する。対応策はさまざまだが、有効なアプローチとして多くの企業が検討しているのは「最新サーバー製品への乗り換え（移行）」だ。本記事では、前編・後編にわたり、サーバー乗り換えの最適解を模索していく。前編では、マイナビニュースが2022年2月に実施した「自社サーバー管理に関するアンケート」をもとに、Windows Serverの移行における課題を確認し、最適なアプローチを導き出していく。

## アンケート実施概要

調査期間：2022年2月3～5日

調査方法：インターネット調査

有効回答：マイナビニュース会員読者（IT関連技術職）200名

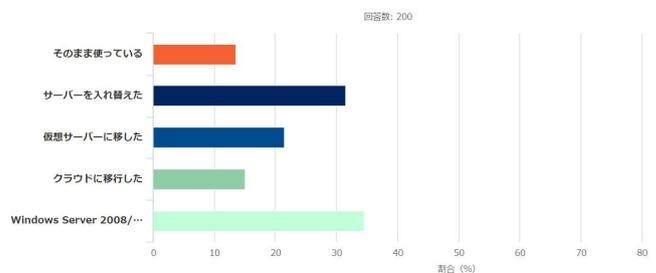
## ビジネスの拡大にともない、サーバー環境の強化・刷新を検討する企業は増加傾向

現代のビジネスで競争力を維持するためには、データの利活用がもはや不可欠だ。そのため、企業のITシステムを運用している業務サーバーや、データの保管庫となるファイルサーバーの重要性も高まっている。ビジネスの拡大によりディスク容量がひっ迫し、サーバーの増強が求められているケースも少なくないはずだ。

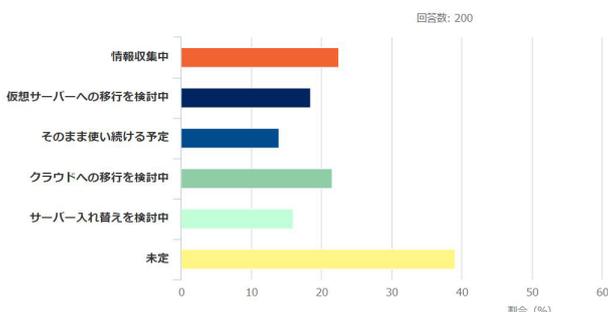
特に昨今では、2020年1月にWindows Server 2008/2008 R2のサポートが終了し、さらに2023年10月10日にはWindows Server 2012/2012 R2の延長サポートも終了を迎える。サポートが終了したOSを使い続けるとセキュリティ面での問題が生じるため、サポート終了に合わせてサーバー環境の刷新を図るケースは多い。今回のアンケートにおいても、Windows Server 2012のサポート終了後に「そのまま使い続ける」と回答した企業は14%に過ぎず、クラウドへの移行（21.5%）やサーバーの入れ替え（16%）など、何らかの対応を検討している企業が多いという結果が出ている。

あらゆる業種でデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速している現在、クラウドへの移行も現実的な選択肢といえるが、業務データを社外に置くパブリッククラウドサービスを、社内規定で利用できない企業も少なくないのが現状。そもそもサーバー OSを入れ替える際には、使用中のシステム・アプリが問題なく動作するのか検証する必要があるため、IT管理者の負担はかなり大きい。クラウドに関するスキルの高いIT管理者が不足しているという企業では、「最新サーバー製品への乗り換え」というアプローチも有効な選択肢となる。実際、同アンケートでは、Windows Server 2008/2008 R2のサポート終了時の対応として、31.5%が「サーバーを入れ替えた」と回答しており、「クラウドに移行した」（15%）を大幅に上回っている。

Q3 2020年1月でのWindows Server 2008/2008 R2サポート終了に際し、どのように対応されましたか？（複数選択可）



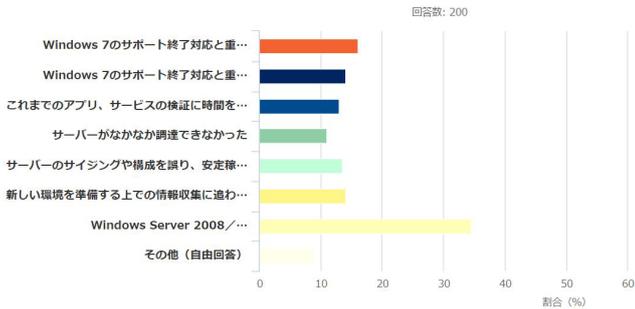
Q2 Windows Server 2012サポート終了に伴い、サーバーの移行のご予定はありますか？（複数選択可）



## アンケート結果から見えた5つの課題をクリアし、間違いのないサーバー移行を

とはいえ、最新サーバー製品の乗り換えは簡単なものではない。業務におけるITの重要性が高まり、ビジネスで利用するデータが増加を続ける状況のなか、要件に合わせたサーバーのサイジングや構成を決めるのは極めて困難なミッションといえる。アンケート結果からは、Windows Server 2008/2008 R2のサポート終了時に「アプリ・サービスの検証に時間を要した、検証できずにシステムに影響が出た」「サイジングや構成を誤り、安定稼働しなかった」「新しい環境を準備するうえでの情報収集に追われた」という企業も多いことが確認できる。また、「Windows 7のサポート終了と重なりリソースが足りなかった、予算が確保できなかった」と回答した企業も合計30%近くいたほか、11%が「サーバーがなかなか調達できなかった」と答えており、サーバー乗り換えを実行するうえでの課題が多岐にわたることが確認できる。

### Q4 Windows Server 2008/2008 R2サポート終了対応時、困ったことはありましたか？（複数選択可）



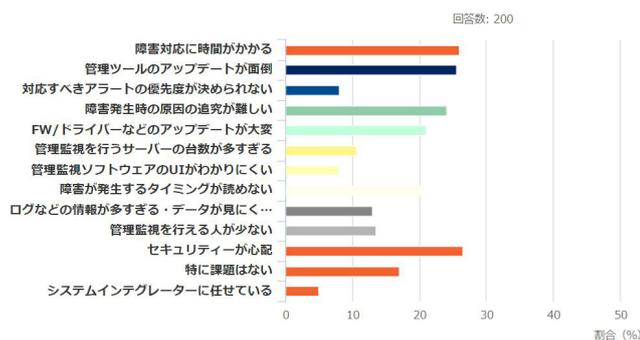
Windows Serverのサポート終了にともなうサーバー製品の乗り換えにあたっての課題として、アンケートから見えてきた項目としては、大きく以下の3つが挙げられる。

- ・ビジネス要件に合わせたサイジング・構成
- ・乗り換えに費やすリソースやコストの削減
- ・最新サーバー製品の迅速な調達

さらに同アンケートの、日頃のサーバー管理における課題についての質問では、20%以上の企業が「管理ツールのアップデートが面倒」「ファームウェア/ドライバのアップデートが大変」「障害対応に時間がかかる」「障害発生時の原因の追及が難しい」「障害が発生するタイミングが読めない」「セキュリティが心配」と回答している。これらの結果を踏まえると、サーバー乗り換えを実施する際には次の2点も考慮する必要がある。

- ・各種アップデートを含む運用の自動化・効率化
- ・障害対応・セキュリティ対応の迅速化

### Q13 日頃のサーバー管理で、もっと楽になればいいのと思う業務はありますか？（複数選択可）



## メーカー公式のオンラインストアから、先進機能満載のサーバー製品を購入するというアプローチ

Windows Server 2012/2012 R2の延長サポート終了をフックに、最新サーバー製品への乗り換えを検討するのならば、上記5つのポイントをおさえて製品や購入先を選定していくことが重要となる。特に近年では、テレワークの浸透や半導体不足などの影響により、製品の調達先に悩む（＝納品が遅れる）ケースも出てきている。これまではサーバーをOA機器販売店やシステムインテグレーター経由で購入するのが一般的だったが、今回実施したアンケートでは「メーカー（担当営業）」(49%)、「メーカーのオンラインストア」(19%)と、メーカーからダイレクトに購入することで最適な製品を選択したいと考える企業も多いことが伺えた。

そこで注目したいのが、法人向けサーバー製品のリーディングカンパニーである日本ヒューレット・パッカード合同会社（HPE）が提供する「HPE ProLiant」シリーズと、同社が運営する公式オンラインストア「HPE DirectPlus」だ。

HPE ProLiantはOEM版Windows Server 2022のライセンスをセットで購入可能なサーバー製品で、AIを活用したクラウド型の運用ツール「HPE InfoSight for Servers」を無償で利用可能。世界中で利用されている製品から収集したデータを解析し、運用の自動化や障害の予兆検知などを実現できる。

HPE DirectPlusは、エンドユーザーや販売パートナー向けのコールセンターを用意し、製品選択やサイジングを強力にサポート。最短5営業日で納品可能なモデルを用意するなど、公式オンラインストアならではの手厚さ、迅速な調達を実現している。

後編では、構成・サイジングの支援から見積もり・購入までをワンストップで提供するオンラインストアの詳細や、そこで扱う運用・セキュリティ面の課題を解決できるサーバー製品についてなど、サーバー乗り換えのアプローチについてより詳しく見ていきたい。

## 移行するなら、「これから」の脅威に備える“世界標準の安心サーバー”

最新のHPE ProLiant サーバーはここが違う

### 安心安全

#### セキュリティ

標準搭載する独自のシリコンチップ「iLO 5」は、サーバーの安全な起動から、不正検知、健全な状態への復旧までを実現。サーバーのライフサイクル全体を一貫してセキュアに保ちます。

#### 長期保守

標準保証に加え、最長7年間の長期保守パッケージをご利用いただけます。医療、金融、公共、製造など、同一システムを長期間にわたり運用されるお客様に最適な保守サービスを提供します。

### 性能向上

#### 拡張性向上

サーバーの性能は格段に進化を遂げています。処理性能や内蔵ストレージ容量などが向上し、電気代、設置スペース、保守費用、運用管理、ソフトウェアライセンスなどを大幅な改善が可能です。

#### 最新技術

サーバーの性能は、CPUの処理性能やメモリの搭載量だけでは決まりません。最新のHPEサーバー独自の最新技術を備えており、仕様表に書かれているCPUやメモリの値以外でも、性能向上が可能です。

### らくらく

#### 自動運用

サーバー運用・保守に必要な情報をクラウド管理するダッシュボードや、ハードウェアの不調を自動検知し、サポートセンターに通報する機能など、お客様のらくらく自動運用を実現します。

#### 予兆検知

稼働状況を可視化したり、障害の予兆を検知したりできる機能を無償で提供しています。世界中のサーバーからの膨大なデータからAIが機械学習して分析することで、障害の予兆を検知しています。

# Windows Serverのサポート終了に 合わせた最新サーバー導入、製品選択の ポイントとは

2023年10月10日にWindows Server 2012/2012 R2の延長サポートが終了する。対応策はさまざまだが、有効なアプローチとして多くの企業が検討しているのは「最新サーバー製品への乗り換え（移行）」だ。後編では、自社に最適な製品をスピーディに導入する方法と、最新のサーバー製品を導入することで得られるメリットについて、法人向けサーバー製品のリーディングカンパニーである日本ヒューレット・パッカード合同会社（HPE）のコメントを交えて解説していく。

## 最新サーバーの製品選択事情—— 先進的な機能を実装し、サーバー運用の課題を 解決できるようになっていた

2023年10月10日にWindows Server 2012/2012 R2の延長サポートが終了することで、Windows Serverでシステムを構築・運用している多くの企業が対応を求められている。最新OSへのアップデートやクラウドへの移行など、対策のアプローチは多岐にわたるが、そのなかでもシンプルかつ効果的な一手といえるのが「最新サーバー製品への乗り換え」だ。

前回で解説したとおり、2022年2月にマイナビが実施した「自社サーバー管理に関するアンケート」から見えてきたサーバー製品乗り換えにおける課題は「ビジネス要件に合わせたサイジング・構成」「乗り換えに費やすリソースやコストの削減」「最新サーバー製品の迅速な調達」の3つが挙げられる。

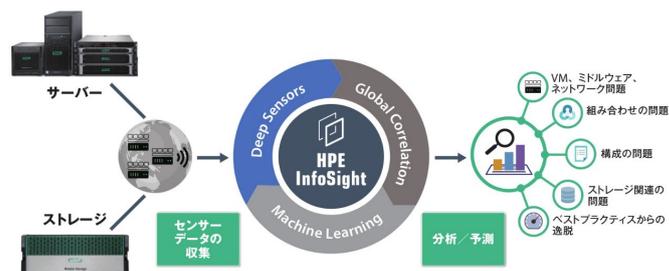
ここまでは一般的なサーバーの製品選択のポイントだが、注目していただきたいのは最新サーバーに実装されている先進的な機能だ。同アンケートでは、既存サーバーのサポート終了を機に「各種アップデートを含む運用の自動化・効率化」や「障害対応・セキュリティ対応の迅速化」を実現し、運用面での課題を解決したい企業が多いこともわかっているが、最新サーバー製品の選択次第では、こうした要件も含めて導入を進めていくことが可能なのだ。

そこで注目したいのが、1990年代から法人向けのサーバー・ストレージ・ネットワークビジネスを展開してきた日本ヒューレット・パッカード合同会社（HPE）が提供する「HPE ProLiant」シリーズだ。本シリーズは、業界のリーディングカンパニーとして先進技術を積極的に取り入れてきたHPEがグローバル市場に投入しているx86サーバーで、豊富なラインナップを展開。先進的な機能を採用しており、搭載されている管理プロセス「HPE Integrated Lights-Out (iLO)」はリモート監視・管理を実現するほか、ファームウェアの改竄を防ぐセキュリティ機能「Silicon Root of Trust」も実装。前述したサーバー運用における課題の解決を支援する機能を多数備えている。



豊富なラインナップを揃える「HPE ProLiant」シリーズ

さらにAIを活用したクラウドの運用ツール「HPE InfoSight for Servers」を無償で利用できることも大きな特徴だ。このツールは世界中で稼働している膨大な数のHPEサーバーの情報をクラウド上に収集し、AIで分析することで、HPE ProLiantで稼働しているシステムで起こる障害の予兆を検知してくれる。HPE サーバー製品本部 カテゴリーマネージャーの日野創氏は、HPE InfoSight for Serversについてこう解説する。



AIによるデータ分析を実現した「HPE InfoSight for Servers」

「HPE InfoSight for Serversはクラウドベースで自律型の運用・管理ソリューションです。世界中で運用されているHPEのサーバー製品から情報を収集し、稼働状況や障害の傾向をAIを使って分析。その結果に基づいて管理者にアラートで通知したり、ホットフィックスの情報を出したりといったことを自動的に行ってくれます。HPE ProLiantを購入すると、このツールを無償で利用することができます」（日野氏）

## “するための”ではなく“してくれる”次世代IT監視ツール—— リモート環境からサーバー監視を実現し、 自動化で運用負荷を大幅に軽減

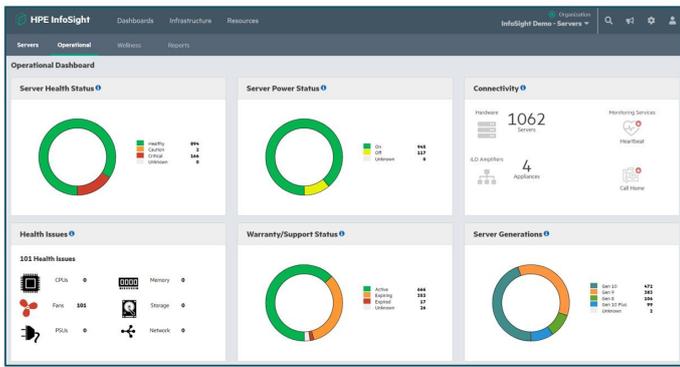
続いて日野氏は、HPE InfoSight for Serversの特徴として「クラウド型監視」「洞察（レコメンド・サジェスション）」「トラブル対応工数の削減」の3つを挙げる。



日本ヒューレット・パッカード合同会社  
サーバー製品本部 カテゴリーマネージャー  
日野 創氏

「昨今は働き方改革が推進され、多くの企業でリモートワークが導入されています。インターネット経由でどこからでもサーバーの監視・管理が行えるHPE InfoSight for Serversは、リモートワーク環境での運用効率化を強力に支援します。わかりやすいGUIを採用し、サーバーの状態を容易に確認することが可能で、ステータス、モニタリング、使われているパーツの詳細などサーバーごとの詳細情報も確認することができます」と、日野氏はクラウド経由でサーバーを監視・管理できることのメリットを語る。

また、サーバーの状態が適切な設定になっていない場合には自動で対応をレコメンドし、クリティカルなホットフィックスなどはHPE InfoSight for Servers上から適用することも可能。サーバーの構成やバージョンがコンプライアンスに適合しているかを自動で判別するコンプライアンスチェック機能も搭載されている。



わかりやすいGUIダッシュボードによりサーバーの状態が一目で確認できる

HPE プリセールスエンジニアリング統括本部 コンピュータ技術部の高木 嶺氏は、こうした機能がリモートワーク環境でサーバーを管理したいIT管理者から高い評価を得ていると語る。

## ついにAIがサーバー運用を変える時代が到来 — サーバー障害を「発生後の緊急対応」から 「予兆からの計画的対応」に変える

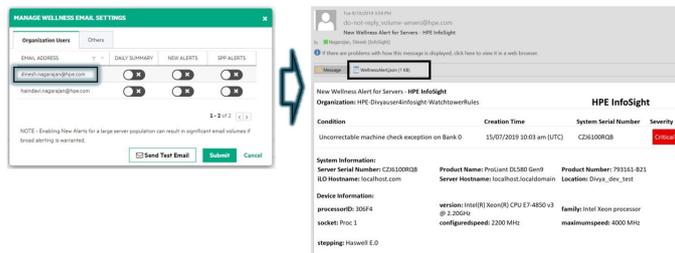
「HPE InfoSight for Serversを利用すると、サーバーに障害が起きた、ないしは障害が起きる予兆がある場合、管理者にメールで通知されます。オフィスやデータセンターに行けない状況でもサーバーの状態をリアルタイムで確認できるため、リモートワーク環境でのサーバー運用・管理において大きなメリットがあります。また、これまでは最新ファームウェアが公開されているか、どのような更新内容なのかを手動でチェックし、自社で運用しているサーバーが対象となっているかを確認する必要があったものが、自動でチェックしてワンクリックで適用できるようになります。こうした機能もサーバー管理者から高い評価をいただいています」(高木氏)



日本ヒューレット・パッカード合同会社  
プリセールスエンジニアリング統括本部  
コンピュータ技術部  
高木 嶺氏

さらにトラブルが発生した際の対応工数を削減できることも、企業のIT管理者に評価されている大きなポイントだ。

「サーバーに障害が発生した際、管理者に自動でメールを送信するだけでなく、HPEのレスポンスセンターに自動通報でケースオープンすることも可能で、HPEのエンジニアが即座に対応してくれます」と日野氏が補足する。



サーバー障害を予知したら自動でメール通知が届く

障害対応に工数がかかってしまうというエンドユーザー / 販売パートナー企業の悩みを、HPE InfoSight for Serversが解消できると力を込める。

## 適切なサイジング・構成を支援し、迅速な調達を実現 — 公式オンラインストアのコールセンターと 国内生産が強気にサポート

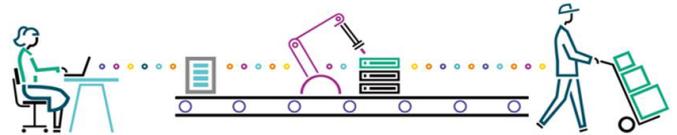
「各種アップデートを含む運用の自動化・効率化」や「障害対応・セキュリティ対応の迅速化」といったサーバー管理者のニーズに対応できる機能を備えたHPE ProLiantシリーズは、2023年10月のWindows Server 2012/2012 R2延長サポート終了を見据えたサーバー乗り換えにおいて見逃せない選択肢となる。こうして選択したサーバーをどう調達することで「ビジネス要件に合わせたサイジング・構成」や「最新サーバー製品の迅速な調達」の課題が解決できるのだろうか？



日本ヒューレット・パッカード合同会社  
パートナー営業統括本部  
HPE DirectPlus店長  
安丸 千暖氏

そのひとつの回答が、HPEが運営する公式オンラインストア「HPE DirectPlus」だ。HPE パートナー営業統括本部に所属し、HPE DirectPlusの店長を務める安丸千暖氏は、公式オンラインストアのメリットについて解説する。

「HPE DirectPlusは“メイドインジャパン”の国内生産で、最短5営業日というスピーディな短納期を実現しています。Webサイトから直接購入できるだけでなく、HPEの販売パートナー経由で購入することもできます。また、コールセンターに相談すれば、企業の環境に合わせた構成(カスタマイズ)の支援から見積もりの作成までをサポート。メールやチャットでの問い合わせにも対応します。見積もりから購入までをWebサイトで完結できるほか、オプションの選択やサポートサービスの導入も可能です。さらにお得なキャンペーンも定期的を実施しています」(安丸氏)



**24時間365日いつでも**  
お見積を簡単に作成、取得可能。キャンセル価格も適用できます。

**わずか3ステップで見積**  
①ベースモデルを選択、②構成を組んでカートへ、③見積を保存する——たったこれだけで見積完成。

**5営業日でお届け**  
国内工場で生産し、OSのプリインストールも対応。受注後5営業日で納品いたします。  
※一部製品・一部地域を除く

いつでも手軽に見積を作成でき、最短5営業日というスピード納品も可能だ

構成を自由に選択したフルカスタマイズが可能で、ハードウェアの組み込みやOSのプリインストールにも無償で対応するHPE DirectPlusは、HPE ProLiantの購入先として大きな価値のあるオンラインストアだ。Windows Serverを提供するマイクロソフトとHPEは30年以上に及ぶパートナーシップ関係を構築しており、OSとハードウェアの相性は抜群。HPEの公式オンラインストア「HPE DirectPlus」では、OEM版Windows Server 2022をサーバー製品とセットで購入することも可能で、プリインストールモデルを選択すれば、無償でOSがインストールされた状態で納品されるため、導入時の工数を大幅に削減できる。

前述したサーバー乗り換えにおける課題である「ビジネス要件に合わせたサイジング・構成」「乗り換えに費やすリソースやコストの削減」「最新サーバー製品の迅速な調達」の解決を強気に支援してくれる。HPE ProLiantシリーズの機能やラインナップはもちろん、HPE InfoSight for Serversの詳細を解説する専用ページも用意されており、検討するうえでさまざまな情報を確認できるのもうれしいポイントだ。

Windows Server 2012/2012 R2の延長サポート終了を機に、サーバーの乗り換えを検討している担当者の方は、ぜひHPEの公式オンラインストアであるHPE DirectPlusにアクセスして情報収集してみたいかがだろうか。

日本ヒューレット・パッカード合同会社  
〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

HPE DirectPlusコールセンター  
☎ 0120-215-542  
(フリーダイヤルをご利用できない場合 03-6743-6355)

受付時間:月曜日～金曜日9:00～19:00  
(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、および05月1日お休み)

Windows Server 2022: Be cloud ready with hybrid.

Hewlett Packard  
Enterprise

